

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社武蔵野銀行（証券コード:8336）

【据置】

| | |
|--------------|-----|
| 長期発行体格付 | A + |
| 格付の見通し | 安定的 |
| 債券格付（期限付劣後債） | A |

格付事由

- (1) さいたま市に本店を置く資金量約 4.0 兆円の地方銀行。県内貸出シェアで 15%程度を確保するなどプレゼンスは相応に高い。埼玉県の前貸金の市場規模は大きく拡大基調にあるなど、良好なマーケットにおいて強固な事業基盤を有していることや、貸出資産の質の高さなどが格付を支えている。なお、16年3月に首都圏の有力地銀の1つである千葉銀行と包括提携を行い、経営統合によらない新たな地銀連携モデルを目指している。
- (2) コア業務純益は貸出金利回りの低下により減少が続いてきたが、16/3期は役務取引等利益の増加に加え、預金保険料の減少等もあり、下げ止まった。しかし、17/3期は日銀のマイナス金利政策導入に伴う資金利益の減少により、再び減益となる見込みである。今後は個人向け預り資産販売の強化やビジネスマッチング・M&A など、法人向けフィービジネスの拡大により資金利益の減少をカバーし、加えて、千葉銀行とのアライアンス効果の実現により、一定の収益力を維持していけるか注目している。
- (3) 金融再生法開示債権比率は 1.89%（16年9月末）と地銀平均を下回る水準にあり、引き続き低下基調にある。ここ数年は大口先のランクダウンが起きているものの、大口貸出先の業況は概ね安定しており、不良債権に対する保全状況などを勘案すれば、当面、与信費用は低水準で推移すると JCR ではみている。また、有価証券運用では、外債、投信などへの投資を強化しているが、金利リスクや価格変動リスクは資本対比でさほど大きくはない。一方、海外の金利リスクや為替リスクが増えている点には留意する必要がある。
- (4) 連結コア資本比率は 9.62%（同）と、貸出残高増加に伴うリスクアセットの伸長により低下傾向にある。また、劣後調達などを除いたベースでは、他の有力地銀と比較するとやや低位にある。今後はリスクアセットの効率的な運用と安定した利益の確保により、コア資本比率を維持していけるかが課題である。

（担当）大山 肇・加藤 厚

格付対象

発行体：株式会社武蔵野銀行

【据置】

| 対象 | 格付 | 見通し |
|---------|----|-----|
| 長期発行体格付 | A+ | 安定的 |

| 対象 | 発行額 | 発行日 | 償還期日 | 利率 | 格付 |
|-------------------------|-------|-------------|-------------|-----|----|
| 第3回期限前償還条項付無担保社債（劣後特約付） | 150億円 | 2013年12月18日 | 2023年12月18日 | （注） | A |

（注）2018年12月18日まで0.61%。その翌日以降は6ヶ月ユーロ円ライパーに1.70%を加えた率。

格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2017年2月2日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：松村 省三
主任格付アナリスト：大山 肇
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ（<http://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ（<http://www.jcr.co.jp/>）の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2014年11月7日）、「銀行等」（2014年5月8日）、「金融機関等が発行する資本商品の格付方法」（2015年2月5日）として掲載している。
5. 格付関係者：
（発行体・債務者等） 株式会社武蔵野銀行
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であると問わず、当該情報の正確性、結果的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であると問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO（Nationally Recognized Statistical Rating Organization）の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ（<http://www.jcr.co.jp/en/>）に掲載されるニュースリリースに添付しています。

本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官（格付）第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル